

1. 地域経済と課題

- (1) 2025年1月1日は市町村合併20周年に当たります。2005年の合併当時の人口は136,023人でありましたが本年1月1日には、113,890人と20年間で22,133人減少しています。最初の5年間は、767人/年の減少であったのが、その後を5年毎に見ると、932人/年、1,248人/年、1,477人/年と減少が加速化しています。旧浜玉地区の人口は、この間増えてきましたが昨年をみると48人減少しています。もう少し見ないとはいけません。浜玉地区も減少時代に入っているのかもしれない。
- (2) 昨年、我が国出生数が70万人を下回りました。唐津市の出生数は668人で過去最少です。人口は消費の源であり、労働力そのものです。と同時に人口が減少すると成り立たないものが出てきます。毎年、バス路線の減便や廃線が行われ、厳木では2店舗のスーパーが閉店、東唐津では医院が閉院し無医地区になりました。暮らしがじわじわと不便になっています。それがまた人口減の引き金となる悪循環を招いています。
- (3) 1月26日投開票の市長・市議会議員選挙の結果、峰市長の3選と新たな28名の議員が誕生しました。議員28人中、新人議員が半分の14人、女性議員が5人。議会での人口減対策、産業・観光振興やまちづくりに対する活発で建設的な議論が望まれます。激しい選挙戦と言われながら、投票率は6割を切っています。
- (4) (参考)「カレーライス物価指数」が過去最高。帝国データバンクがカレーライスで使用する原材料や調理に係る水光熱費などから計算した指標。2024年11月は1食377円で、8か月連続で最高値。前年同期に比べ2割高、コメ価格値上がり影響している。スーパーのコメも高止まりしたままである。
※第一生命保険の「サラっと一句！わたしの川柳コンクール」(1月30日発表)の優秀100句の一つ、「下がない コメの値段と 血糖値」。ベスト10を決める投票受付中(3月18日締切)。

2. 経営支援から見える地域経済と課題

- (1) 令和6年度第3四半期(令和6年10~12月)は、巡回訪問428件・窓口対応485件の経営支援を行った。
- (2) 「令和6年能登半島地震」等復興支援のため、石川県が開設する事業者支援窓口に唐津商工会議所として1月27日~31日の5日間、のと里山空港(輪島市)内に開設されている能登事業者支援センターへ職員1名を派遣した。震災・水害の傷跡は各所に残っており、事業者の経営が日常に戻るのはまだまだ先と思われる。詳しくは、会報3月号で報告する。

3. LOBO 調査(早期景気観測)&中小企業景況調査

(1) LOBO 調査【令和7年1月調査】

業況DIは、感染症拡大と燃油コスト増で3か月ぶり悪化。先行きは、世界情勢への不安と消費停滞で慎重な見方

全産業合計の業況DIは、▲15.4(前月比▲1.0ポイント)

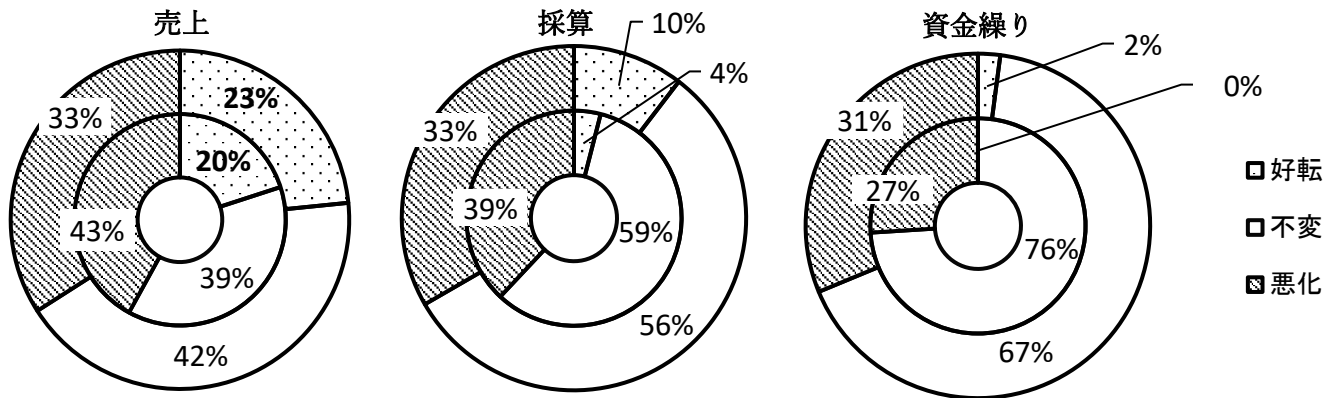
全国：サービス業は、感染症の拡大により、飲食・宿泊業で伸び悩みが見られ、悪化した。小売業は、初売り需要等により百貨店では好調な一方、消費者の節約志向が根強く、ほぼ横ばいとどまった。製造業・卸売業は、気温低下から冬物飲食料品や繊維製品の需要が増加したものの、機械器具関係が振るわず、停滞した。また、建設業は民間工事・公共工事ともに伸び悩みが見られ、足踏み状態となった。コスト増が続く中、円安基調、政府の燃料油価格激変緩和補助金の縮小等、さらなる負担増加が続いている。度重なるコスト増に見合う価格転嫁が追い付かない中、深刻な人手不足も続いており、中小企業の業況は、3か月ぶりに悪化となった。

九州：業況DIはほぼ横ばい。小売業では、初売りの特需で好調な百貨店や総合スーパーなどで売上・採算が改善した。サービス業では、1月13日に日向灘を震源として発生した地震による大きな影響は無かったものの、感染症の流行や労務コストの増加が足かせとなり、飲食関係や宿泊関係などで採算が悪化した。事業者からは、アルバイトの時給を正社員よりも高く設定しなければ、求人に応募すら無い状況である、という声が聞かれた。

(2) 中小企業景況調査【令和6(2024)年10月～12月調査】

円グラフの外側：前年同期（2023年10～12月）と比べた今期（2024年10～12月）の状況

内側：前々年同期（2022年10～12月）と比べた前年同期（2023年10～12月）の状況



直面している経営上の問題点（各業種の最も多かった問題点）

製造業：需要の停滞

小売業：消費者ニーズの変化への対応

建設業：従業員の確保難

卸売業：人件費の増加

サービス業：材料等仕入単価の上昇

4. 唐津の街のトピックス

- (1) まちづくり会社のいきいき唐津㈱が総務省のふるさとづくり大賞で内閣総理大臣賞を受賞しました。ホテル、映画館、飲食などで中心地域の活性化に貢献しているだけでなく、社員の多くがUIターンであることも評価された。極めて低い唐津の若者回復率への対策としても注目している事例である。
- (2) 「InnoDrops」（唐津市、小山直子代表）が昨年11月の「さがラボチャレンジカップ」で最優秀賞に輝いた。「さがラボ」は中小企業や起業家が競うビジネスコンテストである。小山さんは唐津へのIターン者で、リモートで東京本社との間で仕事されている。
- (3) 高級婦人誌「家庭画報」（昨年10月号）に矢部太郎さん（気象予報士など）が「蕭雨（しょうう）」について一文を寄せている。「佐賀県唐津市や…ではそんな霧雨のことを、・・・、猫毛雨（ねこんけあめ）と呼ぶそうです」とある。でも「???’ですよね。老舗高級傘店の前原光榮商店のHPにも同様の話が出ている。
- (4) クロマグロの佐賀県の漁獲枠が、大型魚（30キロ以上）が前年比3.2倍の20.7トン、小型魚（30キロ未満）が4.5倍の19.1トンと大幅増になった。玄海漁協が「クロマグロの増加により、イカが過剰に捕食されているようになり、イカが減少している」と水産庁に要望していた。
- (5) 唐津市西の浜に2階建てのホテルが完成。建築計画概要書では建築主は（株）Next STAY。同社のHPを見ると「ホテル運営業務のすべてを一括して代行します。」「ホテル所有者様・事業者に寄り添い『投資目的』でのホテル運営を行っています。」とある。
- (6) 森永胃腸科医院が昨年12月末に閉院した。東唐津が無医地区になった。まいづる本店のATMがついにゼロになった。
- (7) 中町の「つく田」の2代目、松尾文平さんが、昨年12月に博多西中洲に「鯔ぶんべい」をオープンされた。数年前には「酔虎寿し」が中州に移転。福岡から唐津に移転してくるお店もあれば逆もある。
- (8) 唐津湾・西の浜に1月2日の早朝、スナメリが迷い込んでいるのが見られた。これは唐津にとって吉兆かも。
- (9) 「週刊エコノミスト（2025.1.20）」に「限界集落の釣り場でムラ興し」と題して、唐津の米丸知成さんが紹介されている。福岡の小学校教員を早期退職し、閉校になった巖木小学校平之分校のプールを利用した釣り堀である。「さがラボチャレンジカップ」での優秀賞受賞が転機になったとのこと。※(2)参照
- (10) サンフレッシュの跡が更地になった。思ったより広く感じる。さらに隣接する山下至誠堂薬局も閉店した。サンフレッシュとほぼ同じ面積規模で某会社の寮が建設されると言われている。

唐津商工会議所では、『KCCI 地域経済四季報Eクォーター』を発行します。市内の商工業、街づくりについての情報をお待ちしています。唐津商工会議所 TEL：72-5141 FAX：72-5146 Email：kcci@karatsu.or.jp